

このメールは、インストロンからのメール配信に許可をいただいている方に送信されています。

## インストロン® TechNotes 材料試験に関する最新情報

### 目次

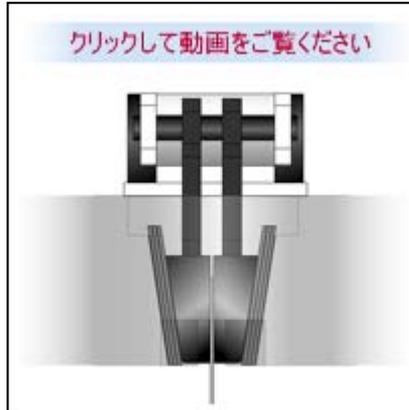
- **テクニカルヒント**: 適切なグリップアクセサリの使用による試験機の保護
- **質問と回答**: 降伏応力の測定には、どのように伸び計を選べばよいでしょうか？

VOL 20

### テクニカルヒント

#### 適切なグリップアクセサリの使用による試験機の保護

試験の実行中に、クロスヘッド内部グリップのジョーがクロスヘッドの外側に突き出ていることはありませんか？もしそのようなことがあれば、これは試験機に大きな損傷を与える恐れがあることにご注意ください。このグリップ形式は、最大3,000 kNという高い引張荷重を提供する弊社の製品ラインであるSATEC™ シリーズでよく使用されています。非常に大きな力がかかるため、適切なアクセサリを使用しないと、試験機のクロスヘッドが変形してしまう恐れがあります。この変形は修復が不可能であり、システムのダウンタイムを引き起こすだけでなく、様々な高価なコンポーネントの交換が必要となる場合があります。これを防ぐには、様々な試験片のサイズに合わせて、適切なグリップスパーサー(別称 **フィラープレート**)のご使用を推奨いたします。これによりジョーをクロスヘッド内側に保つことができます。フィラープレートについての詳細や、お客様の試験に適した方法をご相談いただくには、弊社の[オンラインフォーム](#)からお問い合わせください。



#### ? お問い合わせ

営業推進チーム  
TEL: 044-853-8530

[オンライン問合せ >>](#)

#### ✓ 4200/4400シリーズ試験機をお使いのお客様へ

最新の3300コントローラとソフトウェアへアップグレードし、強力で柔軟な機能を手に入れることができます。使い慣れた試験機本体やロードセルはそのままご利用いただけ、新しい試験機に買い換えるよりもずっと低価格です。

[詳しくはこちら >>](#)

### 質問と回答

**質問**: 降伏応力の測定には、どのように伸び計を選べばよいでしょうか？

**回答**: **伸び計**には、1%ひずみを測定するものから3000%+ひずみを測定できるものまでありますが、より大きなひずみを測定できる伸び計を使うことが必ずしも最良のソリューションとは限りません。鋼のような剛性の高い試験片を測定する場合には、降伏点を求めるのに十分な解像度が提供されるよう、ひずみ測定範囲10%以下の伸び計を使用することが望ましいです。一方、プラスチックのような材料は、一般により大きなひずみ値で降伏するので、ひずみ測定範囲50%の伸び計が推奨されます。ゴムのような大きな伸びを呈する試験片には、**高伸度伸び計**(ひずみ測定範囲100%以上)の使用が推奨されます。お客様の試験片に適した伸び計についてのご相談は、弊社の[オンラインフォーム](#)からお問合せください。



インストロンジャパン カンパニーリミテッド  
〒216-0006 神奈川県川崎市宮前区宮前平1-8-9  
TEL: 044-853-8520  
[www.instron.jp](http://www.instron.jp)